

水害検証特別議録
委員会

④・丙・丁	大分類	中分類	委員会		
	F	01	5	3	1
議長	事務局長	局長補佐	調査係長	会議係長	係

【第5回】

開会	平成27年12月24日(月)午前10:40		閉会	同	午後0:05
場所	大会議室				
出席委員	①金子晃久 ②関優嗣 ③遠藤章江 ⑤中島亨一 ⑥中村安雄 ⑦中村博美 ⑧水野昇 ⑩堀越道男 ⑪茂田信三				
欠席委員	大澤清, 寺田洋				
委員外議員	なし				
案件等説明のため出席した者	江連八間土地改良区維持管理課長 吉川定男				
事務局員	齊藤事務局長, 古谷補佐, 安田係長, 倉金書記				
署名	委員長 中村安雄	担当書記 同上			
案件	○関東・東北豪雨水害に係る八間堀川の管理について				

開 会 10時40分

○委員長 既に40分経つちゃってますんで、とりあえずきょうビデオ見る前にいいですか、途中の話を先にお聞かせいただくことで開会をしたいと思います。10時40分になっちゃいましたが、改めまして課長さんがお見えになってくれましたんで、時間遅れましたが再開をさせていただきたいと思います。ビデオは後でご覧いただきたいと思います。今回、課長さん、私どもは河川の関係を、石下の土木工事事務所に出席をいただいて3の方においでいただいたんですが、現場をずっと検証しました。最初は若宮戸ですね、10時から11時。11時から今度は三坂の方を検証しました。午後に今度は八間に入ったんですよ。八間も橋本の機場というか大きい水門ですね。国交省の管理なんですよということを言わされました。それで、その次に決壊した現場を見させていただきました。これは大生の農協の西側ですね。堤防から見せてもらつたんですけど。その後、最後に新井木の機場ですか。橋本じゃなくて新井木なんですかね。八間掘、小貝川の方へ排水する機場のところへ行つたんですが、私も初めて入ったんですね。建物も古いし機場としては排水管が太いもの3本、排水管というか給水管ですか、3本あったのは現場で確認しております。大分古いんだという話は聞いております。現場見せてもらったのは初めてなんですが、いずれにしてもまったく機場がどういったその当日作用してどのような形で排水をしたのか、それと普段どういった点検をしてるのか。そしてまた排水能力はどのくらい機械にはあるのかというようなことが今回実態を知らないもんですから、お聞かせいただければというふうに思います。私がいくつかの問題取り上げましたが、それらの後、委員さんの方から質問あると思いますんで大変でもそちらの方でお答えをいただきたいというふうに思います。

○吉川課長 わかりました。わかる範囲でお答えさせていただきます。

○委員長 当日ですよね。

○吉川課長 ちょっと、よろしいですか。今、機場のお話聞いているんですが、何かちょっと大生排水機場のことを聞きたいとか、水海道排水機場、淵頭町にある排水機場にあるのを聞きたいのか、ちょっとその辺私理解できない…。

○委員長 今、私申し上げたのは淵頭の機場です。新井木って言っちゃったから。淵頭ね。だから、大生の機場とか排水関係だと、何かというのは、また大生の方だと何かもありますから、それはそれでまたあれなんですが。この間現場を見せていただいたのは淵頭の排水機場。それは機場が運転されたのはいつごろとか。そういうこともあと点検して機場は機能が十分果たせるような仕組みになっているのかとか。その辺の内容を聞かせていただければと思いましたので、お願ひしたいと。

○吉川課長 何からお話すればいいですかね。

○委員長 じゃあ、まずね、10日の水害のあった日にあの機場の方に、どなたか、排水施設の管理は江連八間さんがやっているんですよということは、工事事務所から聞いて私初めてわかったんですよ。その前はおそらく委員の皆さんもそうだと思いますが、八間がやってるのかなと。八間というか工事事務所の方ですか、石下のね。そつ

ちの方が管理しているのかなというふうにばっかり思っておったんですが。江連八間なんですよと。私どもも江連八間さんに対する土地改良区施設維持管理補助金というのが出てるんですよね。初めて、改めて見直して金額的なことも新たにはつきりしたんですが、日ごろ、議会運営をしている中でこの金がどういうふうに使われているか審査したこと恐らくない。可決して予算化しているというふうなものだと思いますので、この内容的なことも一応お聞かせいただければと思います。当日からお話しいただければ。当日の10日の日ですね9月10日。10日の日の実態をちょっとお聞かせください。

○吉川課長 9月10日、うちの方では水海道排水機場と呼んでますが、そこに関しては、19時半ごろからポンプの運転を始めました。

○中島委員 何時ですか。

○吉川課長 19時30分ごろです。

○中島委員 19時30分、10日の日。排水を始めたということですね。

○吉川課長 そうです。それで約1時間、20時半ごろには停止しております。

○中島委員 20時30分には停止。

○吉川課長 はい。停止につきましては、吐き出し水槽から機場内に水が少し入って来たという状況がありましたので、停止をしました。

○中島委員 それよくわからないんですか。吐き出し…。

○吉川課長 水を吐く方の水槽ですね。小貝川に吐くのに、いきなり川に吐くのではなくて、1回コンクリート製の構造物のところへ吐き出すようになっておりますので。

○中島委員 そこに水が入って來た。

○吉川課長 そうです。そこから機場の方へ、亀裂、経年劣化もあると思いますが、水が入りましたので、ポンプの方は停止したということです。水がいくらか漏れてきたということですね。吐き出し水槽から機場の内部の方へ水がしみ出してきたと。

○中島委員 経年劣化。

○吉川課長 おそらくそういうのもあろうかと思います。築60年を過ぎてますからね。昭和26、7年のころつくられたものでございます。もし、もっと細かいこと知りたいということであれば、恐らくこちらの方にもあろうかと思いますが、約30年前、昭和60年にちょうど10センチぐらいの本で「水と戦う」というのが来ていると思います。それに水海道排水機場のことも細かく載っていると思います。

○委員長 1時間回したそうですが、1時間というポンプの排水量というのはどのくらいなんですか。機場の排水能力というのは。

○吉川課長 性能上は約1秒間に3トンぐらいだと思います。ここは排水ポンプが3台ありますが、動かしたのは1台だけですので、約3トンぐらいだと思います。

○委員長 何で3トン3台動かさないで1台だけしか動かさない。

○吉川課長 ちょっとやはり定期的な関係か何かちょっと原因は調べてませんが、2台についてはスイッチ入れたところポンプが回転しなかったというのが現状です。

○中島委員 これは点検なんかしてないんだ。

○吉川課長 定期的な点検はしてますが、ポンプを回すということはちょっとやって

ませんので、水がないものですから。

○委員長 ポンプを回したのは、前回はいつだったんですか。

○吉川課長 かなり前、平成の頭のころだと思います。ちょっと私運転してないので、その辺の記憶は定かではありませんが。

○委員長 そうすると私どもの方からすれば、要するに維持管理費を払ってるのは点検をするための費用も値しているのかと思うんですが、そういうことはないですか。

○吉川課長 それもやっておりますが、電気的な点検が主になります。

○委員長 電気的な点検やっても機場が動かなくちゃ、その排水機が動かなければ、その点検の意味がないように思われるんですが、その辺はどういうことなんですかね。

○吉川課長 その辺はちょっと申し訳ないんですが、点検不足だったのかもしれませんですね。

○中島委員 いいですか。申し訳ないとかそういう問題じゃなくて、ここに出てる金額というのは湛水防除ということで防除するためにやってるわけですよね。

○吉川課長 そこの機場はつくったのは、昭和20年代ですので。

○中島委員 いやそれは20年代ではあっても、管理者は江連八間ですよね。江連八間が管理するということになってるんでしょ。排水機を全部管理するのか管理ということでしょうよ。動くとか動かないとか、そのときになつたら動かなかつたら、管理していないと責任追及されるのは当たり前じゃないですか。ね。

○吉川課長 はい。申し訳ありません。

○中島委員 おかしいでしょ。だって年間600万から700万のお金をして、いざとなつたら排水機が動きませんでしたと。ポンプが動きませんと。3台あつて3台フル稼働させれば1秒間に10トンの水が流れるわけでしょ。全部が同じ能力があるかどうかは別としても。

○吉川課長 実際に計算上は、約6.9…、約7トン弱。

○中島委員 7トン弱。それは1機しか動かなかつたと。

○吉川課長 はい。申し訳ないですが、1機だけです。

○中島委員 残りの2機はお休みしちゃつたと。

○委員長 スイッチ入れても動かなかつたんだ。

○茂田委員 点検してないんだ

○中島委員 点検つていつやつたんですか。

○吉川課長 これはポンプのあれですが、毎年電気的なやつは、やってますし、ポンプの方も回転するかどうかは、やってますが、実際に電気じゃなくて手で回すだけの話ですので。

○中島委員 それは点検と言わないでしょ。それは点検と言いませんよ。ちゃんと稼働するかどうかを確認するのが点検と言うんでしょ。それは点検と言わない。手で回して動いたと。

○吉川課長 稼働まではちょっと難しいのかなと思います。水位が足りないというものが現状です。排水ポンプはある程度、水位がないと稼働がちょっと、昔のポンプで不可能ですんで。

○中島委員 何年前のポンプ使ってるんですか。昭和20何年のポンプ。

○吉川課長 そうです。20年代のポンプです。

○委員長 30年前、60年前か

○遠藤委員 委員長いいですか。

○委員長 はい、遠藤委員。

○遠藤委員 再度もう一度、排水の能力だけ確認したいんですけども、3台フル稼働で1秒間に7トンという解釈でいいんですね。1秒間に7トン。

○吉川課長 はい。

○遠藤委員 わかりました。

○茂田委員 いいですか。

○委員長 はい。

○茂田委員 課長さん、うちでも1分間12トンのポンプがあるんですよ。滝を流すのに。1分間12トン。やっぱり空めぐりしちゃまずいのはわかつてますよね。でも結構水たまるでしょうよ。台風とか。たまるでしょ。

○吉川課長 はい。

○茂田委員 何でそのときやらないの。うちはちゃんと点検してますよ。

○吉川課長 そのときは他の機場の方の運転等に行ってしまいますので、そちらまで手が回らないのが現状です。

○茂田委員 さっき話聞くと水たまらないからやる機会ないと言うんでしょ。いくらだって水たまるときあるでしょう。ふえるとき。わたしはいつも水たまらないときは滝の方から持つて来て回しますよ。たまにモーターのとこへ、そっちもあると思うけど、このくらいの枝なんか触ると、かんじゅうと回らないんだよね。そういうとき私ちゃんと下へ降りて枝を取ってるよ。だって水たまらないから、皆さん滝とかモーター実際ないからそれで通ると思うけど、私はちゃんと毎分12トンの滝のモーター回してるもん。さっきのあれ答えにならないよ。だって増水して必ずあるはずだもん。モーターというのは多分下にあるから、モーターかぶれば空めぐりしないから全部もぐらなくなって。モーター全部かぶらなくたって。動くとか動かないとかわかるでしょうよ。手じや回らないよ。さっき言ったの、うそだよ。1秒間に3トンのモーターなんか手じや回らないよ。モーターない人は騙せるけど、まず手じや回らないと思うよ。

○委員長 今の手で回すという話は、手で回したんじゃなくて手でスイッチを入れたという話。

○茂田委員 違うでしょうよ。モーター回すって言ったら、水ないから。

○委員長 手で回すの。

○吉川課長 やはり手だけでは回りませんから、パイプの長いのを使って、てこの原理を応用して。

○茂田委員 手でなんか回るわけがないでしょうよ。1分間3トンも排出するポンプだもん。手で回るわけがないもん、そんなの。うそ言わないで答えないでくれる。うそ言ったってわかっちゃうんだから、絶対。手でなんか回るわけがないでしょう。

○遠藤委員 委員長、私は前回の会議終了後に資料要求したんですよ。というのは、契約関係。八間掘は一級河川ですからどうしてその一級河川の重要な排水機場、末端の一番大切なところですよ。小貝川に流すあんな大きな排水機場で、どういういきさつで昭和何年ごろとか、どういう経緯で江連八間土地改良区がその排水の役割を担うようになったかという、そういう契約関係の書類をお願いしますということをお願いしておいた。あと…。

○吉川課長 そうですか。それはちょっと聞いてなかったもんですから。当時についてお話をしますと、昭和20年のころから県営の小貝川沿岸農業水利事業というのが始まりまして、それで水海道機場含め7つの排水機場をつくったということで、私は記憶しています。本に多分書いてあると思います。それが今度県からの譲渡で合併する前の八間掘川沿岸土地改良区の方へ譲渡されたわけでございます。

○遠藤委員 そうすると県からの譲渡なんですね。

○吉川課長 県からの譲渡です。

○遠藤委員 そうすると契約というか譲渡証にもとづいて譲渡されたということですね。

○吉川課長 譲渡されて。八間掘自体もその当時は一級河川ではありませんので。

○委員長 ただの排水だ。

○吉川課長 排水路ということでなってました。そういうわけで多分、改良区の方へ譲渡されたんだろうと思います。

○遠藤委員 はい、わかりました。

○吉川課長 ですから、今現在は水海道排水機場の一級河川八間掘川の排水というのと、もう一つは小山戸機場というのも一級河川の千代田堀川というところに、ついてますので、そちらの方も同じような形になってます。

○委員長 何ヶ所あるんですか。江連八間が管理している機場というのは。

○吉川課長 機場は今のところ10ヶ所だと思います。

○委員長 下妻から水海道までで10ヶ所ですか。

○吉川課長 はい。

○中島委員 小貝川のところは何ヶ所くらいあるんですか。

○吉川課長 小貝川は、6カ所だと思いますね。

○中島委員 小貝が6カ所。

○吉川課長 はい。

○遠藤委員 そうすると、すべて6カ所の排水機場はその当時どういう動きをしていましたか。

○吉川課長 当時、まず上流部、下妻の方はちょっと私、細かくやってないので、答えられないと思いますが、冠水していた場合には動かしたと思います。というのは私、委員長から課長と言われましたが、維持管理委員会の方を担当してますので、直接今のところ工務の方に担当してませんので。

○委員長 吉川さん、課長じゃないんですか。

○吉川課長 いや課長ですが、私は維持管理委員会を担当してるもので、江連八間か

ら、総務課長、工務課長、維持管理と3人の課長がおります。

○委員長 一番物事を分かってる方は吉川さんなんだそうです。維持管理の担当。

○吉川課長 維持管理と言いました、維持管理委員会の方を担当しているやつで。圃場整備をやったところの担当ということですので、ただ今まで合併する前まで八間の方でそういう工務の方の関係やってたので、私が一番詳しいだろうということで、局長の方が多分言われてたんだろうと思いますが。

○中島委員 いいですか。さっきの水海道排水機場の管理は江連八間がやってると。実際にあそこを動かす人というのは別にいるんですか。

○吉川課長 一応お願ひはしております。

○中島委員 お願い。

○吉川課長 というのは、旧八間堀の時代から職員はそのころ少なかったものですから、旧八間のときにはやはり10ヶ所近くの機場がありましたので職員が全部行って全部回すのは不可能ですので、地元の方の判断で稼働はお願ひしております。ただ、今言いましたように水海道排水機場もお願ひしてはありますが、なかなか回す機会がなかったものですから、運転士さん自身運転できるかどうかというのはちょっと疑問がつくと思います。

○中島委員 地元の人というのは委託していたということ。

○吉川課長 そうです。お願ひしているわけです。

○委員長 民間の人をお願いしてるんですか。

○吉川課長 民間の人です。

○遠藤委員 今の説明の中でちょっと区別して聞きたいのは、災害時、水害時にその排水機場のスイッチを入れる人を委託しているのか、それとも全般的に点検から、点検のために稼働するのも地元の人に依頼してるのか、どっちなんですか。要するに、維持管理すべてを地元の人に依頼しているのか、それとも水害が起った時にスイッチ入れるのだけをお願いしているんですか。そのところだけちょっとはっきりと教えてください。

○吉川課長 そこら辺はちょっと…。前の人から引き継ぎというか、昔からの習わしですので。その点検じゃなくて、排水ポンプを水がたまつたので動かすというのをお願いしているというふうに私は認識しています。

○遠藤委員 スイッチだけですよね。スイッチだけね。

○堀越委員 それは無償ではないでしょ。やっぱりお金ある程度出して。

○吉川課長 やはり無償ではありません。

○中島委員 いやそれはスイッチ入れるだけだ。

○遠藤委員 そうすると19時30分はお願いした人がスイッチ入れただけということなのね。

○吉川課長 それは職員が行ってやりました。

○委員長 じゃあ、お願いした人はやってない。

○吉川課長 職員が行ってやってやりました。

○中島委員 19時30分、これはかなり遅い時間だけども、八間の方は随分満杯状

態なってきてたんだけども。これ19時30分というのは10日の19時30分でしょ。

○吉川課長 はい。

○中島委員 大分いっぱい、いっぱいになっちゃってから始めた。

○吉川課長 先ほど言いましたように、今まで水海道機場を運転したことがほとんどないものですから、私も運転の方には自信がありませんので業者の方にお願いして来ていただいて。今までほとんど鬼怒川の方へ入っていたのが現状でしたので。今回は逆に鬼怒川の方が…。

○中島委員 普段頼んでいる人というは運転したことない。もしかして。

○吉川課長 恐らくないと思います。

○中島委員 何十年間。見てるだけ。

○吉川課長 あとはそうですね。見てるだけだと思います。

○遠藤委員 そうすると19時30分に来たのは職員と業者。

○吉川課長 そうです。

○中島委員 業者というのはどういう業者なんですか。

○吉川課長 ポンプ屋さんです。

○中島委員 どこのポンプ屋さんですか。

○吉川課長 土浦のポンプ業者です。

○中島委員 えつ。

○吉川課長 土浦のポンプ業者です。

○茂田委員 名前聞けばいいじやん。名前、何て言うの。

○吉川課長 斎藤商事株式会社の方へ改良区ではお願いしますので、そちらの方の方に来ていただいて、運転も一緒にやってもらって。

○遠藤委員 それでちょっとここのとこだけ、もう一つ確認したいのは、八間堀川は午前中の時点で満水だったんですよ。労働基準監督署の前辺りね。その労働基準監督署の下のところ昔、へこだめで低いところなんで、水が上がってくるんだけども、そこはアパートがあってアパートから人がもう出れない状況だったの。玄関まで水が来ちゃってね。その状況で市に私は電話した。もう水があふれるから排水してくれと。それで市から八間に連絡があったかどうかなんですよ。それで市民の中で八間堀土地改良区に電話した人がいるの。排水してくれって。そしたら電話に出なかったという話ですよ。9月10日。だれも。それは事実かどうか。もう一つ、市に電話したら人手がないと言われた人もいた。市の方はそういう対応だった。八間は電話してもだれも出なかつたと。これはどうですか。本当は。

○吉川課長 9月10日、私も外へ出てましたのでそれはわかりません。

○中島委員 出払ってたと。

○遠藤委員 人は事務所にはいないんだ。通常。

○吉川課長 いや、いたとは思いますが、ちょっとそこら辺は電話で対応があったのかどうかは聞いてないのでわかりません。

○茂田委員かけたのは電話の履歴でわかるよ。

○委員長 課長ね、八間が満水だったということですよね。せめてその満水の水を全部排水してあれば、本流の水が入って来ても相当の水の量が八間に流れ込むことができたわけだろうというふうなことを、素人考えですが、思っちゃうんですよね。何でもっと早く排水をしてくれなかつたのかなというふうな疑問が少し出るんですね。だって、19時って7時ですよ。夜の7時半に排水をしたという話ですからね。もっと早い時間にできれば、そういうことも可能だったんじゃないですか。だって、<聞き取り不能>のときに満杯だったという話。もう既にそのときは若宮戸なんかは越水しちゃってるわけですからね。それを考えれば当然八間に入ってくるか、わかるわけですから。そういうふうに何となく思っちゃうんですよね。だから、もっと早く排水ができれば、3つの排水ポンプ動けば、そういう能力があるんですから、相当効果はあったのかなと思うんですが、それが動かなかつたということよりも、時間が7時半ですからね。これは手がなくて間に合わなかつたんだという話もね。はい。

○関委員 その日、職員の方々さまざまな現場を対応されてたと思うんですが、朝から石下でも溢水しているという情報が入っていたと思うんですが、その段階から夕方5時半に至るまでここにたどり着かなかつたということは、その間さまざまな現場の対応したと思うんですが、そこの説明をしていただけますか。どこのどういう機場だったとか、どこのどういう現場だったとか。

○吉川課長 それはちょっと。私実際10日は朝5時から水没した百間堀機場に運転士から来てほしいということで行ってました。多分7時か8時ごろまでいたと思います。

○中島委員 それ橋本ですか。

○吉川課長 净水場のとこの機場です。

○中島委員 えっ。

○吉川課長 常総市の净水場の近くにある機場です。354と294がぶつかつたところの排水機場です。

○中島委員 各、八間に落とすいろんな排水の樋管ありますよね。都市下水路から当然入ってきますよ。その開閉というのはどこが行うんですか。

○吉川課長 都市下水路から…。

○中島委員 だから、例えばこの役所の前ありますよね。この役所の前からずっと線路を越えて今ある労働基準監督署の近くに排水溝ありますよね。あれの管理というのはだれが行うんですか。

○吉川課長 それはわかりません。改良区ではそこはタッチしておりませんので。わからないです。

○遠藤委員 委員長。

○委員長 はい。

○遠藤委員 新井木の東町ってあるじゃないですか。あそこはちゃんと地元の人が積極的に排水してたんですよ。自分らで。

○吉川課長 やはりあそこも同じように運転士さんをお願いしてやってもらっています。

○遠藤委員 だから、それは地元の人が一生懸命やってあそこは被害が案外少なかつたところなんですよね。そうすると結局、同じ排水機場であってもやる人によって対応はばらばらということですよね。やってることはね。回す人もいれば回さない人もいる。それはお願いしている人の判断ということになるんですか。

○吉川課長 そうです。

○中島委員 マニュアルないんだ。

○委員長 頼りないような話だな。

○遠藤委員 それと、いくらこういう災害があってもその排水機場に江連土地改良区の職員は配置されないとということだよね。配置されなかったということだよね。例えば、6カ所小貝川に排水すれば排水機場には1人も職員は配置してなかったということだよね。水海道には1人いたとしても。

○吉川課長 そうですね。水海道機場には配置され、行けなかつたということですね。

○遠藤委員 あと、もしいたとすれば通常スイッチ入れるように頼んであった地元の人がスイッチを入れてたという状況だということでいいですか。それで間違いない。

○吉川課長 そういうところへもいっているところもあると思います。

○中島委員 水海道排水機場、19時30分まで、夜の7時半まで1回も回さなかつたんですか。

○吉川課長 回してないです。水海道については回してないと思います。

○中島委員 それは委託した人が全くやってなかつたということ。

○吉川課長 いや、まったくやってなかつたというよりは、小貝川への自然配水ができたということです。

○中村委員 ん。

○吉川課長 小貝川の水位がまだ上がってなかつたと。

○中島委員 えっ、違うじゃん、だって、午前中に八間いっぱいになってるし。

○吉川課長 八間いっぱいになつても、小貝川へ落ちるあればあつたそうです。

○委員長 落ちたということですか。

○吉川課長 落ちたということです。実際に落ちなくなつたという話を聞いてるのは、私が聞いてる範囲では、当日ポンプを止めて30分後。約9時ごろに小貝川の水がいっぱいになつて

○中村委員 夜の9時ね。

○吉川課長 自然落下ができなくなつたというふうに聞いてます。

○委員長 自然排水ができたから、機場のポンプは回さなくともよかつたんだという意味なんですね。

○中島委員 回す意味がない。

○吉川課長 ポンプ回すより、やはり自然排水の方が、できれば。

○遠藤委員 だって災害時だもん。排水ポンプはそのためにあるんでしょ。排水ポンプっていうんだから。排水するためのポンプでしょ。

○委員長 自然で落ちてるほかに、またポンプでアップすればもっと排水ができたっていう意味じゃないんですか。それは。

○中島委員 それはそうだつぱよな。強制排水だもん、だって。

○中村委員 すいません。夜の19時半までの間、午前中にいっぱいだったのに、その管理している担当者から連絡も何もないんですか。ここは満水だとか。7時半まで職員が行かない間は。だれも何もしてなかつた。

○吉川課長 私らの方の職員も13人しかいませんので、やはり外へ出てたり何かで私も全部のことは把握できませんので。連絡はなかつたんじやなかろうかと思います。

○遠藤委員 当時電話も出なかつたということは。13人全部出払っちゃってたということだよね。留守番もいないで。

○吉川課長 私も10日の10時ごろ事務所に行きましたけど、その時にはおりましたので。向こう、その日の夕方18時ごろに出る時もやはり職員はおりましたので、からっぽになつたというのはなかろうかとは思うんですが。

○中島委員 はい。

○委員長 はい。

○中島委員 通常で、要するに水海道排水場ね、淵頭の。あれというのは通常ポンプ使わないので自然排水したら、どのくらい排水できるんですか。

○吉川課長 自然排水の量まではわかりません。

○中島委員 排水の口径というのはどのくらいあるんですか。

○吉川課長 はい。

○中島委員 排水管の口径というのは。

○堀越委員 樋管の口径。

○吉川課長 樋管の口径ですか。2メーター50以上の大さだと思いますね。

○中島委員 2メーター50。

○吉川課長 ちょっと細かい数値まではわかりませんが。

○中島委員 それって1本。2本。

○吉川課長 1本です。

○中島委員 1本。昔、六地蔵って。

○吉川課長 そうですね。六地蔵。その当時も1本だったと思います。機械排水というのは別にありました。それを平成4、5年のころですか。国交省で改築してますんで。

○中島委員 小貝川の方がふえてくると逆流するために水門は閉めますよね。

○吉川課長 はい。

○中島委員 当然。

○吉川課長 はい。

○中島委員 どのくらい高低差があれば排水できるんですか。自然排水というのは。

○吉川課長 自然排水は極端な話、小貝川が10センチ低ければ流れていくのではなかろうかと思いますけれども。

○中島委員 60センチ高低差があったと聞いてるんですよ。八間と小貝川の間で60センチの高低差があったんだけども、そのときは自然排水やってたということですか。当然。

- 吉川課長 自然排水やってたんではなかろうかと思います。
- 中島委員 それで19時30分に機場の中に水が入ると。1回ためるところから。直接放水するんじゃないんでしょ。ポンプの方へは。
- 吉川課長 直接というか川に直接じゃないんですけど、樋管の横に吐き出し水槽というのがありますので、そこに吐き出してそこから川の方へ吐くようになります。
- 中島委員 それが20時30分にいっぱいになってきたと。それ以上はもうポンプ回すことはできないということなんですか。
- 吉川課長 そのときの感じではちょっとまずいかなということで、危ないかなということで、コンクリートの間からしみて来てましたんで、それで止めました。
- 中島委員 逆に内側に入ってきたということですか。
- 吉川課長 そうです。
- 中島委員 機場側に。
- 吉川課長 機場側に。
- 遠藤委員 要するに、吐き出し水槽が水圧によって亀裂が入ったということですか。そのどこだけはっきり言って。吐き出し水槽に水の圧力で亀裂が入って排水機場側に水が入ってきたということ。
- 吉川課長 ちょっとそれは私はわかりません。排水したらそういうふうになったということですので。
- 中島委員 それじゃ、国交省に聞かないと困るんだよな。
- 遠藤委員 それでスイッチを入れに来た人は自分たちが感電する恐れがあるからその場を去ったというのが事実なんですか。それは。
- 遠藤委員 止めてからは戻りましたんで。私は事務所の方に戻りました。
- 中島委員 あそこ補助電源か何かあります。ディーゼルか何か。
- 吉川課長 ありません。みんな電気です。
- 中島委員 普通の電源。
- 吉川課長 はい。
- 中島委員 なんか6百ボルト来てるんだとか。
- 吉川課長 そうです。
- 中島委員 その電源からつくったやつ行くようになってるわけか。ディーゼルとかそういうのはないんだ。
- 吉川課長 ないです。
- 中島委員 発電機とか。
- 吉川課長 はい。
- 中島委員 じゃあ、例えば停電しちゃうと終わり。停電で終わったんじゃなくて。
- 吉川課長 停電ではなかったですね。
- 中島委員 停電じゃなくて止めた。そこで。危険なんで止めたと。
- 茂田委員 いいですか。
- 委員長 はい。
- 茂田委員 課長、2点ほど聞きたいんですが、多分三、四年だと思うんですが、天

満町で市の方で損害賠償払ったんですよ。

○遠藤委員 本町。

○中村委員 本町。

○茂田委員 多分三年か、四年前でその後の教訓というのを全然いかしてないんですね。こういう市に迷惑かけたとかで、訓練しなかったんですね。その後。その後どういう対策しました。あれだけ人家に大水、車が潜っちゃったとか。完全な過失ですよね。過失じゃなければ市の方で賠償しないですから。そういう事故があつて、どこ機場だか、責任どこだか私はわかりませんけど。そういう大事件を起こして、訓練したかしないか。普通だったらしますよね。ああいう事故起きて、今度じやあ、職員を集めて、アルバイトだか臨時だか知らないけど、その人集めてこういうときはこうやって、まずマニュアルをつくるわけですよ。普通ね。あれだけの事件が起きて、ますマニュアルつくったかつくらなかつたか。1点ね。あとマニュアルつくって訓練したかどうか。そういう万が一の、水は怖いですからね。その対策の訓練したかどうか。もう一つは、検証して国交省とか江連用水とかいろいろ分かれてるんです。県とかね。それは今度私からお願ひしますけど、1本に統一してもらえないかね。こっちで質問するうちの管轄じゃない、こっちで質問すると県だとか、それではまるで責任逃れなんですね。うちの方は関知しない。県に聞いてくれとか。県に聞けば、これは国交省だとか国だとか。それまず大至急一本化しないとまた同じことになっちゃうよ。それ、委員長からもお願ひします。

○委員長 2つの質問がありましたが、一つは鬼怒川でそういうことがあったんだよ、過去にね。それらはそれぞれの家庭に補償をしたと。そういうのはその水門を閉めなかつたということですかね。そのために逆流して地域に被害が及んだというようなことで、市の方から補償をしたという経緯がありますね。そのやつ一つということですね。その辺はそのようなことに対する訓練がされているのかどうかという質問が今ありましたね。

○吉川課長 その件に関しては、私わかりませんので。最初の本町の件に関して、改良区は、皆さん人家のことを考えてますが、改良区ですので田畠の冠水した水を排除するというのが主目的になります。

○遠藤委員 ちょっといいですか、委員長。説明させてもらいたい。樋管は八間が管轄じゃないと思うんですよ。一般河川だから樋管は県もしくは市なんだけども、今お互いに罪の擦り合いをやってて、どっちが管理するかは決まってないみたいな状況らしいですよ。樋管は市なのか。今この事件が起つた段階でまだ話し合いはついてないと思いますよ。だから、八間の方に聞いてもそれはちょっとわからないと思う。八間が管理しているのは排水機場だけですね。

○吉川課長 今のところ排水機場。あとは国交省さんから言われて樋管の方もあります。これは上流の方ですが。

○遠藤委員 上流だけ。今回の水害の対象になった樋管は一切関知してない。

○吉川課長 今の樋管はないです。改良区で管理しているのは川裏側にあるゲートだけです。

○茂田委員 いいですか。私言いたいことは一本化しなくちゃだめだよということだよ。緊急時でうちが管轄じゃないからわからない。ちゃんと戦争だって何だって、大将がいて、中将がいて、指揮系統ができるないんだよ。

○委員長 いや、課長では。この話は。

○茂田委員 だから、それ上へちゃんと伝えてくれっていうことをおれ言ってるんですよ。まず。課長には権限ないから。それ伝えてくれってことをね。早急に指揮系統一本にしないとまた同じになっちゃうよ。

○遠藤委員 あと委員長、

○委員長 はい。

○遠藤委員 こういう重大な水害が起こりましたよね。それで、例えば県とか国とかから八間はどういうふうに動けとかそういう指示は一切来ないんですか。例えば、早く排水機場のところに行って配置について排水ポンプ回せとか。それは全く江連八間の中で独自に動くというマニュアルなんですか。あとは指示が来たか来ないのか。県から。県の河川事務所から小貝川の排水をしろとか。そういう指示というのは一切なかったんですか。当時。当日。

○吉川課長 ないです。今回というか、今までないです。

○遠藤委員 今までないです。

○堀越委員 先ほど業者が一緒に行ったというのは言いましたね。これはなぜだったんですか。

○吉川課長 私らも水海道機場の運転は、自身初めての運転だったものですから。お願いして来ていただいた。

○堀越委員 何かやりとりとかありました。その内容の問題。要するに業者呼んでるわけだから、ポンプの状況も含めて、どういう状況かというのが、分かるわけでしょう、業者さんと見てて。動かなかつたとか、何かなつたときに、その問題の時に、これは何だっていうふうに、そこらは何かなかつたですかね。

○吉川課長 そのときはちょっとポンプの稼働することがあつたんで、ちょっとそこまでは聞いてなかつたんですが。

○委員長 斎藤商事っていう会社が点検するとき、管理会社が点検するんでしょ。

○吉川課長 そういう契約はしておりません。

○関委員 通常の点検というのはどちらにお願いしているんですか。毎年、点検行っているわけですよ。

○吉川課長 電気の点検のみです。電気設備の点検。

○関委員 ポンプの方の点検は全くしてない。じゃ、何のためにポンプを置いて…。意味が分からぬ。

○吉川課長 電気の点検も大切でしきけど、排水機を動かすための電気でしょ。機場が動かなかつたら電気が来てても意味がないわけですから。最終的には機場が機能しなかつたら意味がないということありますよね。

○遠藤委員 委員長。はい。

○委員長 はい、遠藤さん。

○中島委員 ゲートの開け閉めってやってるんでしょ。

○吉川課長 改良区ではやってないです。

○中島委員 えつ。

○吉川課長 改良区ではやってません。ゲートの開け閉めは。排水のときはやりますが、通常はやってないです。

○中島委員 通常は開けっ放しでしょ。

○吉川課長 通常開けっ放しです。

○中島委員 例えば増水してきて水位が上がってきたら。ゲート閉めますよね。そのモーターの点検をやってるんだ。

○吉川課長 いや、川表のゲートに関しましては。小貝川のゲートに関しては常総市さんの方でやってると思います。常総市さんがどなたかに委託されてると思います。

○中島委員 八間でやってるのはポンプだけなんだ。

○吉川課長 そうです。ポンプで運転するときは川裏側のゲートを閉めて。小貝川閉まってる場合には小貝川のゲートを開けてそこで排水すると。

○中島委員 ゲートつて2つあるんだ。

○吉川課長 2つあります。

○中島委員 川表と川裏と。今回の場合は川表を閉めて。

○吉川課長 川表も開いてました。先ほど言いましたように、自然排水が利いてますので、両方開いてたのが現状です。

○中島委員 それで途中で両方とも閉めて今度は排水したと。

○吉川課長 川裏だけ。先ほど言った19時30ごろ川裏を閉めてそれでポンプを運転したということです。20時半に出たときにはまだ。

○委員長 それでは一人ずつやってください。遠藤さん。

○遠藤委員 点検についてなんですけども、ほかの例えば大生郷とかの排水機場、飯沼川とか、仁連川に流すようなのは、年間何回も点検やってるんですよ。地元の人がある。排水機場の周りの除草とか、そういうのもきちんとやってる。この前、私たち現場行ったら、草を割いて排水機場に行くような状況だったんですよ。道もない全然。だから、通常の点検というのはどういう点検をしてたのか。まず詳しく教えてもらいたい。というのは普通点検して人が出入りすれば草に道ができるはずですよね。それもない。除草もしていない。八間堀の堀なかにごみが山のようにいろんなごみが詰まっちゃってる。だから、通常の排水の堀の状況じゃないですよ。ごみ溜まっちゃって。普通だったらごみだって全部かき出さなきゃならないですよ。外に。いろんな自転車のかごだの、ぶんながってるのは。通常どういう点検をどのようにやっていたのかということを1点説明してもらいたいことと。あと最初は八間堀の水たまってきたのは鬼怒川に排水してたわけですよ。八間堀の水をね。量が多いから、鬼怒川に。国交省が鬼怒川の水位が上がったから八間の排水を止めた。そうするとおのずと八間の水がふえていくというのは当然ですよね。その連絡が江連八間にあったかなかったか。これだけちょっと教えてもらいたい。要するに鬼怒川の排水を止めれば、おのずと八間の水位は増す。

- 吉川課長 はい。
- 遠藤委員 そうすれば必ず溢れる。その連絡は江連八間に国交省から連絡があったのかなかつたのか。
- 吉川課長 それはありません。
- 遠藤委員 ない。
- 委員長 ないということと、排水機場に至る通路なんかも全く草だらけで出入りできなくくらい。まあ、私も入って行ったんですが。そういったところは、ほとんど手入れはしていないということでおいいんですよね。
- 吉川課長 草刈りに関しては、年に…。
- 委員長 水路の中にたくさんの障害物入ってくるなんていうのも。そうなってるわけですから。それはそのとき入ったかどうかね。今回の水害で入ったんだと言われるとそうなんですかという話になっちゃいますよね。
- 遠藤委員 あともう一つ。市から江連八間に八間についての何らかの対策をするようにという連絡があったかなかつたか。市から。
- 吉川課長 私は聞いてません。
- 遠藤委員 聞いてないじやなくて。あったかなかつたか。
- 吉川課長 それはわかりません。どなたか受けたかどうかもちょっとわからないんで。それに関しては、ちょっと私はわかりません。多分なかつたんじゃないかと思われます。
- 堀越委員 いいですか。あと委託された点検表ありますよね。何々やつた、何々やつたって。そういうのはあるんですか。
- 吉川課長 電気点検に関してはございます。電気設備についてはあります。
- 堀越委員 ありますというか、ちゃんと書かれて提出されて確認はされてると。
- 吉川課長 はい。
- 堀越委員 ポンプの方はそういうものは。
- 吉川課長 ないです。
- 委員長 どうですか。その内容的に大体の内容は、今課長の方から報告がされましたか、わからない部分がかなりありますからね。質問してもその部分はわかりませんというようなことになってしまう。
- 遠藤委員 本来であれば、今言ったようなことを一覧表に、6カ所の小貝川に流す排水機場があれば、9月10日の時点でどういう動きをしたとか職員がどういう対応をしたかというのは、当然資料として出していただかないとわからない。今言ったような市から連絡があったかなかつたかというのも、これも明らかにしてもらわなくちゃならないし。やっぱり…。
- 委員長 吉川課長にはわかりませんということで。どなたかがそういった連絡を受けてあったかどうかわからないわけですよね。内部で話してないわけですね。水害の後の話し合いとか何かというのではないんでしょ。特別このことに関しては。
- 吉川課長 今のところないです。
- 茂田委員 委員長。

○委員長 はい。

○茂田委員 今質問出て、答返ってこない幾つかありました、それ文書でやって答えもらうようにすればいいでしょ。ここだけで1人しかいないから連絡あったとかわからぬから1回こっちから文書で出して何月何日までに返送くれという形じゃないとダメですよ。1人だからね。わからぬし。わからぬじや、ね。私は聞いてませんじやなくて、全体で聞かなくちゃまずいから。そのようにお願ひします。

○委員長 ということで、いろいろ質問がありましたが、そういうたった不明な点がたくさんありました。それらについて課長もわからぬ部分がどなたかの職員がそいつた報道とか連絡があったという場合にはでしょうよ、多分きっとね。だけど国だとか県そして常総市からは今の段階では全く連絡がなかったみたいな話ですからね。その辺がわからぬ。とにかく今回の水害がいかに損害を被って被災者は大変な思いをしてるということを思えば、やっぱりきちんとした検証をしていかなくちゃならないという我々の立場でもありますんで。いろいろ聞き取りしましたが御理解いただきたいというふうに思います。ただいま委員からの話がありましたが、一部わからぬ不明な点がある部分については、後日また文書でお願いすることになると思いますが、わかつてゐる部分わからぬ部分、それぞれ持ち帰つてもわからぬものもあると思いますが、できるだけ明確なお答えをいただきたいというふうに思いますんで。ひとつその節はよろしくお願ひしたいと思います。

○吉川課長 わかりました。それは戻りまして、ちゃんと局長に伝えておきますので。

○委員長 最後になりますがよろしいですか。きょうはこういうことで。一たんは。ちょうど11時半ですが、約1時間弱ですね。そういうことで時間の行き違いが、1時ということでね。1時まで待つてたら、私の方が立ち上がりまつちやいますから、まあ今日は40分遅れで来ていただきましたが。どうにか落ち着いたんですが。ちゃんとうちの方から連絡は時間を10時にして文書で渡してありますから、もう一度確認してください。

○吉川課長 ああ、そうですか。

○委員長 お忙しい中、大変どうもありがとうございました。

○吉川課長 どうもお役に立てずにはいません。

○委員長 ありがとうございました。はい、ちょっと暫時休憩しますからね。

休 憩 11時32分

再 開 11時40分

一 東京大学二瓶教授のシミュレーション映像を放映 一

○委員長 はい、どうもありがとうございました。水の流れがこれによって解明されました。八間に対してこの現状を見ると八間が左右した影響というのはものすごく大きいことが、登坂事務所の方の話さつき出てますが、明らかになってきてるんだよね。だから、責任追及するというよりもその管理が思うようにやられてなかつたことの方が問題になってくるんだよね。維持管理料きちんと払って運営していただけるというふうことで費用払ってずっと何年もやってきてるわけですから。それが電気の点検はやってたけど排水機はあんまりわからない、みたいな話されました。あまりにもずるずるでこんなことがあろうというふうに思ってないから、結果的にああいった管理の仕方をしてきたのではないのかな、というふうに疑いたいよね。全く。

○遠藤委員 委員長やさしい言葉で言ってますけどね。きょうの遅れてくること自体。連絡がどういう事務体系になってるかもそうだし。例えば、この600万の予算内訳だって聞きたいですよ。どういう内訳でやって、ここの樋管、排水機場にどれくらいの予算かけてきたのかも最終的には知りたい。

○委員長 下妻の方も調べたら129万しか下妻は出てないわけですよ。常総市の600何万がもう80数%占めちゃってる。そういうことも今回初めてわかったわけですから。今まで予算をそのまま可決して支払いをして、予算を執行してたわけですから。予算の審議の時に、もっと使い方についてというようなことは考えられなかつたんだよね。水害があつて初めて…。

○中島委員 いいですか、委員長。湛水防除の費用というのは基本的には耕作面積ありますよね、耕作面積の田んぼにたまつた水の排水に関しての問題であつて、常総市負担しているというか、前は水海道と石下は別々に負担してたんでしうけど、その負担するこの金額が700何万が下水道そのものの管理の問題なのか、田んぼにたまつた水の管理をするためのものなのか。それは一概に言えないんで。

○委員長 恐らく水田面積だと思うんだよね。

○中島委員 こここの水路の管理まで入ってるのか。それとも田んぼにたまつた水の管理なのか。農政課か何かに聞かないと。確かに江連八間というのは都市下水路の役割果たしてるわけだから。そこら辺でこういう補助金出してるのかとかそこら辺もはつきりさせないといきなり金払ってるんだからお前らやるのが当たり前だって言ったって、そうじやないですよって言われたときはしようがないから。

○遠藤委員 委員長、私おかしいと思うのは、一級河川の一番最終の終末ですよ。小貝川に排水する機場。それが何で江連八間に県から譲渡されてるのか、それも知りたい。どうして重要な場所を。

○委員長 江連八間にお預けしたか。

○遠藤委員 県が。一級河川の川なのに。

○中島委員 だから、おもしろいこと言ったじゃない。川表のゲートは県だと。川裏のゲートは八間だと。

○茂田委員 そんなのないよな。指揮系統な。

○中島委員 表側のゲートは県で裏側のゲートは八間で、そのゲートを閉めて排水するのは江連八間の方の仕事なんだと。

○委員長 とりあえず今あのような形で不明な点がたくさんあった。だから、それはある程度文書で提出してもらう形を取るにしても、今言った県だとか国だとかの関連がありますよね。河川ですから。予算を執行している分については執行部が江連八間から要求されたものを市は予算化して議会にかけてるというふうなことだろうと思うんですね。だから、604万4000円という金額なんかもどうしてそういった細かい金額まで算出されたのか。これは恐らく要求してきた江連八間の方からの予算要求の内容の部分にこういったものが記載されてると思うんだよね。恐らくはね。じゃないと、こんな4万4000円という600万のうちから出てこなくてもいいように思うんだけど。ほかもずっと今まで2万9000円、2万9000円って出てますね。今回4万4000円だったわけですが。端数がね。そういうたとこもどういった予算の請求をしてきて、その予算の執行状況はつぶさにその後検証していくかというと大変ですから。予算つけてそのままにしてあるのが現状だと思うんだよね。恐らくは。だから、これらについてはやっぱりちゃんとした形を今後は指導していくほかないと思いますよね。公金を出してるわけですから。公地面積てるか、そういうことも確認していきたいと思いますんで。どうですが、事務局の方で。今言われたようなことを文書で出してくれって。出したとしても。出すのは出すほかないよな。出してもらってよ。ただ、農政課に対してもこの予算を組んでることについてはどういった内容で予算の要求がされてるのか。根拠あるわけですよ。600万も出てるわけですから。だから、この600何万だって水田面積に比例して出してるんだから、何の割合で出させてるのかそういうのもわからないからな。

○古谷補佐 先ほど皆さんから質問の上がっていた内容で、八間の方で回答できなかつた部分に関して、再度文書で要求いたしまして、回答出せるものは出していただく。それとあと農政課の方にも予算の根拠ですか。湛水防除事業費の内容の根拠ですね。そちらの方も必要ということですね。

○委員長 いろんな資料を提出しておったんですが、どっからも出てこないです。資料が。資料をもとにきょうは八間の審査をしようというふうに考えておったんですが、そういうことで今回は資料が提出されないということになりました。今後その新年を迎える御用納めですよ、間もなくね。そんなこともありますんで。今皆さんから手を挙げられてますが、来年の日程を決めたいんですが。

○中島委員 要するに資料の方の提出が遅れているということで、その提出された資料というのは、できればこの次の会議の前に各委員に送付していただいて、一応

○委員長 確認してもらって。

○中島委員 読み込んでからこっちに来られるような形で、できれば最悪でも会議の一日、二日前には最低でももらいたいというふうに思ってますんで。

○委員長 いつ出てくるかの話だよね。それはね。出て来てからで、じゃあ、こっちが勝手に決めたとき都合が悪いですよと言われても私も困るんで。

○中島委員 それで資料の提出がばらばらでしょ。だから、それを持ってすべてやつていくとなると遅れちゃうんで。片方は片方で同時並行的にやって、次の検証議題の方へ移ってかないと、一つ一つ全部まとまってからやるという話になると、時間ばかり食っちゃうんで。同時並行でもいいですから、片方は片方出るまでやつておいて一時停止しておいて次の課題の方取り組んで行った方がいいと思うんですよね。

○委員長 今言われましたように資料が出た段階で委員の皆さんに配布をすると。だけど、日程はどうしますか。いつ出てくるかは相手方の出し方。

○茂田委員 資料、何月何日までに提出してくださいと言わないといつまでも来ないですよ。進まないですから。調べればできるでしょうよ。

○古谷補佐 日程は決めずに、なるべく早く出せということで。

○茂田委員 日にち決めなくちゃだめだよ。こういうルーズなんだから。なるべくなんかだめ。何月何日までに。

○委員長 例えば、八間に対して10日以内に出してくれって言われても、恐らく難しいかもしない。今ちょうど新年を迎えようとしている時期だから、緊急だとしても15日くらいは。

○茂田委員 日にち決めなくちゃだめだよ。なるべくなんてだめだよ。時間に来ないんだもん。600数万補助出してるんですから、決算書もらってください。ちゃんと領収書添付でね。じゃなけりや、どこへやったとかわからない。飲み会に使われるかわからない。旅行行かれたらわからないから。ちゃんと請求書と明細で600何万の報告するように言ってくれますか。

○中島委員 日程決めましょ。

○委員長 はい、日程はね、日程は決めとかないと、ただそのね、いつ出てくるか、ちゃんと決めてくださいという相手方の提出期限だよね。こっちが決めた期限に出されてくるかどうかは、はっきりわからないから、日程は決めておきたいんですが、日程を決めて万が一。

○中島委員 来なくても次の課題を取り組めば。

○委員長 はい。じゃ、日程は1月はどういうふうにしたらよろしいですか。

○堀越委員 真ん中あたりで15日。

○金子委員 15日いいですね。

○中島委員 そんないっぺんにおくっちゃう。

○堀越委員 えつ。その前にやるの。

○中島委員 その前に次の課題へ移ってかないと。資料来るまで待ってんでは、いつまで経っても終わらないから。次の課題、役所の初動体制とかいろいろあるべ。同時並行でやっていくのに、さっきどういう形で役所の初動体制調べていくかとかそういうの話し合わないとしようがない。だから、できれば第1週目の6、7辺りで。

○委員長 15日は金曜日だけど、13日はどうですか。

○茂田委員 15日入ってる。何か。

○中村委員 違う、違う。賀詞交歓会の予定だけど、どうした。まだ未定なの。

○茂田委員 15日、鬼怒川の着工式入ってるんだよ。2時ごろから。

- 中島委員 休み明けの1週目で1回開いて今後の方向性決めなくちゃだめだつぱよ。ゆっくりしてもいいけども。
- 茂田委員 だから、日にち決めなくちゃならないでしょう。ます。
- 委員長 8日か13日か。
- 中島委員 8日辺りで1回決めましょうよ。そこで。6, 7辺りでどつかで1カ所やりましょうよ。
- 委員長 いくら早くても8日だな。
- 中島委員 じゃ、8日でいいでしょうよ。8日で。
- 委員長 8日、新年会かからないように午後にするか。
- 中村委員 午後がいいです。私。
- 委員長 8日の午後1時半でいいですか。
- 金子委員 金曜日なら金曜日で特定して欲しいんですけど。いろいろありますから。
- 委員長 いや、だからね。8日にやってその後はどうなんだろう、18日とか。
- 中島委員 13。資料出てくるかもしれない。
- 金子委員 1週間に1回ぐらいで金曜日なら金曜日で固定して欲しいんですよ。いろいろ入ってくるんで。15, 22, 29とか。そうすると1週間に1回できるじゃないですか。どつかの曜日に確定してもらった方が我々もやりやすいですよ。
- 関委員 金曜日じゃなくてもいいってことですか。
- 金子委員 じゃ、木曜日なら木曜日でも。特定曜日でやってもらった方が。
- 堀越委員 木曜日って固定してもらえば、それはそれでいいですよ。
- 委員長 最初のこの金曜日除いて、木曜日にするのか。
- 中島委員 しようがない。
- 茂田委員 都合悪い人は休むほかないんだよ。全員の意見聞いたら。
- 委員長 最初はこれ8日だけ金曜。
- 中島委員 だから、8日はいいでしょうよ。それで。次は14か15ということで。
- 委員長 その次、木曜日。
- 茂田委員 固定してくれって言うんですよね。
- 委員長 木曜日っていうのは14日か。
- 中島委員 14日10時。その次は21日。で28日と。
- 中村委員 委員長、決定でいいんですか。
- 委員長 そういうことで木曜日してくれって言うんだから、木曜日に。出席できる人ばかりいないと思いますから。
- 中島委員 それはしようがないよ。
- 委員長 そういうことで8日だけは。
- 茂田委員 あと時間も10時にしてくれますか。
- 委員長 最初の日だけは…。
- 茂田委員 最初はもう決まったからいいけど。あと。
- 中村委員 14, 21, 28で決定ですね。
- 委員長 まあ、そういうことだね。きょうだって八間が来たんで、八間の実態がわ

かつてきましたわけですよね。自分らが勝手に想像したのでは話はつかないから。明らかにそういうことの発言があったわけですから。まあ、いいかげんなところたくさんあった。失礼ですが。

○中島委員 よく聞いた方がいいよね。

○委員長 じゃあ、大変御苦労さまでした。閉会させていただきます。

【第6回開催日 平成28年1月8日（金）午後1時30分
第7回開催日 平成28年1月14日（木）午前10時
第8回開催日 平成28年1月21日（木）午前10時
第9回開催日 平成28年1月28日（木）午前10時】

閉 会 12時05分